

南米協会だより

発行所
富山県南米協会
〒930-0096
富山市舟橋北町4-19
電話 076-441-6148
FAX 076-444-2179
北陸銀行県庁内支店
普通預金口座1098740
郵便振替口座00760-8-5145

No. 119

ラテンフェスティバル in 富山開催



立ち並ぶ屋台

富岩運河環水公園〈野外ステージ付近〉において、本会も協賛して、開催された。

主催者によると、「半年前の3月11日に東日本大震災が発生したことにより、その影響が南米から日本に来て働いていた日系人にも波及し、多くの人が解雇され帰国した。第1回は3000人も来場者があり、温かい励ましの言葉に包まれ、大成功であった。昨年の記憶がよみがえり、今年は少し淋しくなったが、『みんなが仲良く、平和に、元気に生きていきますように!』、『みんながHAPPY・笑顔でいられますように!』心から願いを込めて、開催した。」とのこと。

会場には、午前中から、各種の物販や飲食屋台(スタンド)が並んだ。アルゼンチン・バーベキュー、串焼きチキン、もちもちチーズパン、アンデス・ポテトの素揚げ、コーンスープ、トロピカル・ジュース、チリ産ワインなど多彩で、ペルー料理も出店し、南米雑貨、楽器を含め、賑やかに祭りを盛り上げた。

昼のイベント(ステージⅠ)は、午前11時から南米の民族ダンス、民族バンドのほか富山市西部中学校プラスバンドによる演奏も披露された。

夜のイベント(ステージⅡ)は、夕方からフラメンコ、サンバ、アルゼンチンタンゴ等の県外の

アーティストが加わり、台風15号の影響で雨天の中、約300名の熱心な聴衆が、 TENT 張りのステージにおいて上演された色鮮やかで妖艶かつ華麗なダンスや民族音楽に21時過ぎまで、酔いしれた。最後にアンデス民謡グループ WAYNO〈ウエイノ〉によるフォルクローレが上演された。

会場では、ファンから「本当のプロがボランティアで出演してくれたとは、有難い。」「このような見事なショーを無料で鑑賞できるとは、感激!」「あいにくの天気のため観客が少なく、もったいない。」との声が聞かれた。しかし、今回せっかくのイベントがマスコミでは、ほとんど報道されず、改めて次回に向けて広報に努める必要がある。

会場では、震災被害者を支援するため復興への願いをこめて、募金箱により義捐金も集められた。

出演チームの中で、WAYNO〈谷中秀治氏代表〉は、1989年にアンデス諸国のペルー、チリ等のメンバーを中心に結成され、欧米を拠点に活動している。日本国内では、愛知万博ほかライブ・コンサートに出演し、学校施設などへの慰問演奏も行っている。引き続き9月19日にオーバードホールで開催された東北 AID 東日本大震災復興支援チャリティ・フェスティバルにも、WAYNO はトリを務め観衆を魅了した。代表の谷中氏は、富山市出身の本会会員で、富山県南米協会設立30周年記念行事においても「コンドルは飛んでゆく」、「コーヒールンバ」等の曲を披露した。

(3面に写真)



富岩運河環水公園屋外ステージ

ミランドポリス ～ ほしが瞬くまち ～

ミランドポリス市高岡日本語学校 室崎 学



● 日本語の書物が到着 ●



6月中旬に南米協会から日本語の書物が日本語学校に届きました。生徒達は早速、新しく来た日本の雑誌などを物珍しそうに読み始めていました。小さい生徒も、幼児向けの雑誌を楽しそうに眺めていました。また、ミランドポリス日本人会会報にも、新しい日本語の書物が届いたことが掲載され、日系人のお年寄りの方々が嬉しそうに借りていかれました。

● 七夕 ●

7月7日に、ミランドポリス日本語学校でも、毎年恒例の七夕をしました。習った日本語で願い事を書いた短冊を、保護者の方が牧場で切ってきたくださった竹につけました。願い事は、「セルタネージョの歌手になれますように」や「プロサッカー選手になれますように」など将来の夢から、「かわいい彼女ができますように」や「大学受験に受かりますように」など切実なものまで様々で、読んでいるこちらにも思わず微笑んでしまいました。



● J r 親善大使、ミランドポリス市訪問 ●



高岡市の中学生4人が、J r 親善大使としてミランドポリス市を訪問しました。初めは、言葉が通じるのか？ホームステイ先は、どんな家族だろう？と緊張した様子でしたが、日本語学校の生徒やミランドポリス市民と交流していく中で、どんどん打ち解けていきました。最後のお別れ会では、涙、涙で言葉を詰まらせながらミランドポリス訪問の感想やお世話になった方々への感謝の気持ちを伝えていました。空港での分かれ際に、J r 親善大使の皆さんが、「絶対にポルトガル語を勉強して、もう一回ブラジルに来る！」と言っていたのがとても印象的でした。

● だるまさんが転んだ ●

日本語学校では、日本の遊びを紹介してみんなで遊ぶことがあります。小さい子供たちは、「だるまさんが転んだ」が大好きでよくやろうと言ってきます。大きい生徒達もやりたがりますが、大きい生徒達とは日本語の勉強もできるように「だるまさんの一日」という遊びをします。「だるまさんの一日」では、例えば、おにが「だるまさんが寝ます!」と言うと、他の人たちはその動詞の通りの動作をしなければなりません。覚えている動詞が多ければ多いほど盛り上がり楽しくなります。



● ラテンフェスティバル in 富山(9月17日)での一コマ ●



富山日伯交流友の会の屋台



立ち並ぶ飲食店



アンデス民謡 (WAYNO)



フラメンコ (プラザ・アレグレ)



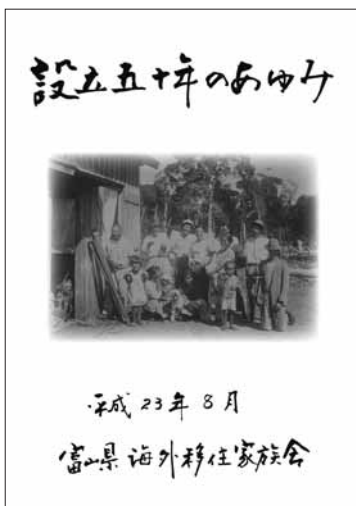
サンバの踊り



雨の中で盛り上がるフィナーレ

家族会50周年記念誌発刊

富山県海外移住家族会(中筋國雄会長)は、昭和36年にその前身の同留守家族連絡協議会として設立され、2年後に現在の名称に改称し、南米等への移住者援護及び留守家族の情報交換を主な目的として活動してきた。



昭和52年には、同会が主催して第3アリアンサ富山村開拓50周年記念訪問団(高平公友団長)をチャーター機により派遣し、外務省を驚かせた。

そして、その訪問経験者が南米との交流の重要性を認識されたことが、昭和54年に富山県南米協会が発足する契機となった。このように同家族会は、本会とは姉妹団体で、現在でも事務局は両団体を兼ねており6月までは会長も同一であった。

このたび同家族会は、50周年を迎えたことから、これまでの記録などをまとめた「設立五十年のあゆみ」(50頁)を発刊した。

日系人の高校進学に関する啓発

県教育委員会は、県内に日系ブラジル人をはじめ在住外国人が増え、その子供たちの高校進学問題に直面し悩む家族が多いとみられることから、高校進学に関し、生徒の保護者に対する啓発事業を行うことになった。そのため県の9月補正予算に324万円が計上された。

事業内容は、ポルトガル語、中国語、タガログ語、ウルドゥ語の4つの言語により、次のような啓発広報を行う。

- (1) 高校進学の意識や仕組みについて、パンフレットの作成
 - (2) 高校進学説明会の開催
 - (3) 高校進学説明用のDVDの作成
- 保護者を対象に高校教育の必要性を啓発するこ

とにより、外国人児童生徒が高校へ進学し、将来、活力ある働き手として日本社会に円滑に適應できるよう促す。

ブラジルから県費留学生



このたび、本年度の県費留学生として、ブラジル・サンパウロ州サント・アンドレ市在住の「吉田マルセロゆうじ氏」が、近く来日することとなった。

吉田氏は、1988年生まれの23歳。サンパウロ州サントアンドレ市の出身で、サンパウロ州立技術大学において機械技術学科の生産プロセスを専攻した。

今回は富山国際大学現代社会学部科目等履修生として、日本文化に対するより深い理解を目指す。日本語は完全ではないが、アイルランドに留学経験があり、英語での会話もできる。祖母が城端町(現南砺市)出身であり、来年3月までの短期間であるが、学業とともに富山県の素晴らしさをぜひ体験してもらいたいと期待される。

伯県人会林顧問と柳氏が逝去

この度ブラジル富山県人会の元会長の林忠行氏(67歳)が、去る8月18日に逝去された。伝え聞くところ、約3か月前に腰の手術をされ、闘病中であったとのこと。かつて柔道で鍛えられた恰幅のよい姿と笑顔が思い出される。

同氏は、昭和37年に同級生の浅野、根塚氏と3人揃って富山高校を卒業直後、神戸移住センターの研修を終え、渡航したことで知られる。同県人会の活動にも尽力され、1997年には、第15代県人会長に就任、最近では、2年前の本会設立30周年式典に来県された。

また、同県人会で前会計を務めた柳信二氏(74歳)も、8月11日に逝去された。

改めて、両氏のご冥福をお祈り申し上げます。